

てらこや埋文

2005年
秋

第21回企画展『古墳の世界～山口県の古墳を探る～』を開催します

山口大学埋蔵文化財資料館は、当館が継続しておこなっている山口大学構内遺跡の調査・研究成果を、学内外に広く公表するため、昭和63年(1988)から年間1～2回の企画展示を開催しています。第21回目となる今年度の企画展は、「古墳」をテーマとすることになりました。

「古墳」のイメージ

皆さんは、「考古学」や「遺跡」という言葉を聞いた時に、どのようなものを思い浮かべますか？ 近畿地方にあるような鍵穴形をしたとてつもなく大きな古墳(前方後円墳)や、古墳から出土する豪華な副葬品を思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか？ しかし一方で実際に古墳を見学したり、古墳から出土した副葬品(鏡や勾玉など)を観察したことのある人は意外と少ないと思います。

実は、「古墳」とはそんなに特別な遺跡ではなく、しばしば我々の身近にひっそりと埋もれています。山口県内だけでも現在までに400基～500基の古墳が確認されているのです。

古墳の出現

日本の歴史では、時代を区分する名称として「古墳時代」という用語が存在します。考古学や歴史学の研究者により多少見解の違いがありますが、大まかには3世紀後半から6世紀末までの時期を示します。それでは、なぜこの時期を「古墳時代」と呼ぶのでしょうか？

「古墳」とは、言葉自体は「土を高く盛った昔の墓」の意味ですが、このような墓は古墳時代以前の弥生時代にも存在します。弥生時代の土を盛った墓は古墳とは呼ばれず、「墳丘墓」、「台状墓」、「方形周溝墓」などと呼ばれます。これらの墓の多くは特定の人物やその家族のためのものですが、弥生時代の終わり頃になると、各地の首長(有力者)はさらに大きな墓を作るようになります。中国地方では、中国山地から日本海側の山陰地方にかけて、四角い墳丘の四隅を突出させた「四隅突出型墳丘墓」が広く分布し、中には一辺50mを超えるものが出現します。また瀬戸内側では、岡山県倉敷市に直径約40mの円形墳丘墓の両側に方形の突出部を持った全長80m以上の橋築墳丘墓が出現します。

このような状況の下、3世紀後半から4世紀にかけて西日本を中心とした各地に、さらに大きく、内容の画一的な墓が登場します。すなわち、前方後円(前方後方)形の墳丘、堅穴式石室に木棺をおさめる埋葬方法、各種神獸鏡など銅鏡を中心とした副葬品の出現です。我々はこのような内容を持つ墓の出現をもって古墳の出現、言い換えると古墳時代の始まりと考えています。

古墳から歴史を読み解く

古墳出現の背景には、四隅突出型墳丘墓の分布域のように各地域で社会的な約束事を共有していた集団や、橋築墳丘墓の被葬者のように地域で突出した権力を有していた首長クラスの人物が、大和政権を中心にさらに広範囲に連携・同盟し、広大な政治連合を形成していく社会構造の変化が存在します。つまり古墳の詳細な調査・研究は、当時の社会・権力構造を復元しうる可能性を秘めていると言えるのではないのでしょうか。

そこで今年度の企画展は、山口県の古墳を対象として、当時の社会構造・精神文化・歴史環境の復元に挑みたいと考えています。(財)山口県埋蔵文化財センター・宇部市教育委員会・下松市教育委員会・山陽小野田市教育委員会・柳井市教育委員会・大阪府茨木市教育委員会・大阪府藤井寺市教育委員会のご協力の下、県を代表する古墳の資料と共に、大和政権の中心地である近畿地方の古墳関連資料の展示もおこないますので、皆さん是非一度ご観覧ください！

(横山成己)



山口大学埋蔵文化財資料館 第21回企画展

古墳の世界
～山口県の古墳を探る～

開催場所：山口大学埋蔵文化財資料館
開催期間：平成17年11月5日(土)～平成18年2月24日(金)
開催時間：午前9時00分～午後5時00分
休館日：土・日曜日、祝日、年末年始(12月28日～1月4日)
※11月5日(土)は開館します
※団体での観覧であれば、事前の申し込みで休館日も観覧できます
入館料：無料

滑石製模造品

滑石（かっせき）という石をご存じですか？ 滑石は爪でも傷をつけることができる柔らかい石で、加工が容易であることが特徴です。このため各時代にわたって様々な用途で使われていました。今回は古墳時代の滑石製模造品についてご紹介します。

古墳時代においては、4世紀後半に農具などを模倣したいわゆる「雛形（ひながた）」として、本物そっくりの精巧なものが古墳の副葬品としてつくられはじめました。しかし、5世紀以降次第に粗雑化・小型化し、大量につくられるようになるとともに、古墳からの出土例はなくなり、祭祀（さいし ※お祭り）をおこなっていた遺跡や集落跡から出土するようになります。

吉田キャンパスでは、古墳時代の集落跡があったと推測される事務局2号館の敷地で滑石製模造品が出土しています。滑石製模造品には盾・斧・鎌・円板形のものがあり、大きさは2～10cmで、紐を通すための小さな孔（あな）があげられています。事務局2号館南側の大学会館前庭部からは滑石の原石が出土していることから、集落でつくっていたことがうかがえます。

また、吉田キャンパスから約3kmほど南西の西遺跡（山口県立西京高校敷地）からは、古墳時代中期（5世紀中葉～後半）の竪穴式住居から斧・鎌・鑿（のみ）・円板形の滑石製模造品が大量に出土しています。これらが具体的にどのように使われたのかは分かっていませんが、住居内などで祭祀に使われたものと考えられます。

（田畑直彦）



盾形

斧形

円板形

鎌形

吉田遺跡から出土した滑石製模造品

滑石の原石

どんな使い方をしていたのかな？



首にかけたい…



家の中につるしたい…

埋蔵文化財のお仕事 vol.2

このコーナーでは、多岐にわたる埋蔵文化財の仕事を紹介します。埋蔵文化財の仕事では土を掘る体力も必要ですが、実は正確さ・緻密さが非常に重要で、根気のいる作業が多いのです。今回紹介する埋蔵文化財のお仕事は…

接合 (せつごう)

接合とは、出土した遺物が破片の場合、同じ個体のものを探してくっつけることです。

～使用するもの～

セメダイン



ピンチ



つまようじ

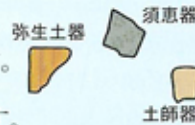


新聞



～接合の方法～

1. 新聞を広げ、土器をその上に出します。
2. 色や材質、模様などを見ながら同一個体を探します。
3. その中で断面同士がぴったりとくっつくものを探します。見つかったら片方の破片の断面にセメダインをつけます。
4. セメダインが少し乾き始めたらピンチで留め、完全に乾くまで固定します。(セメダインがはみ出したときは、つまようじで、土器を傷つけないようにしてとります)
5. これを繰り返して、くっつく破片がなくなったら終わりです。(完全な形になるとは限りません)



(植木美佳)



根気強く、くっつく箇所を探します

古代の知恵に挑戦 vol.2

鹿の角で釣り針をつくって、魚を釣ってみよう

現在釣り針は鉄でつくられています。縄文時代、弥生時代の遺跡からはしばしば鹿の角、イノシシの牙など骨角製の釣り針が出土します。そこで今回は、現代の道具を使って手順を省略しつつ、鹿の骨から釣り針をつくらせて魚釣り挑戦しました。

①材料



鹿の角

②用意するもの



のこぎり
ヤスリ

③板状に小さく着る



水に漬けて柔らかくしてから板状に切ります。角の中心の髄の部分は柔らかいので使えません。

④針の形を描く



つくりたい針の形を描きます

⑤ヤスリで削る



水に漬けて柔らかくしながらヤスリで削ってつくります。

⑥完成品



大きい針と小さい針の2種類をつくらせてみました。

⑦釣る



ミズを餌に、じっと待ちます…

結果発表!

大きい針で鯉を狙いましたが、餌だけとられてしまいました。小さい針には20～30cmの魚がかかりましたが、水面まで上げたところで逃げられてしまいました…。3時間粘りましたが、あたりはあったものの結局1匹も釣り上げることはできませんでした。残念!

(有本浩紀)



茶臼山古墳資料館

茶臼山古墳資料館は、柳井市の柳井港駅北西約1キロメートル、周防灘を臨む標高約80メートルの丘陵上にある、国指定史跡柳井茶臼山古墳に併設されています。入館者は年間約4千人で、小中学校や各種団体による見学・学習会等、広く活用されています。

資料館展示室には、柳井茶臼山古墳から出土した埴輪・鉄剣・鏡・勾玉などの展示がされており、なかでも古墳時代の鏡としては日本一の大きさの「変形神獣鏡」（展示品はレプリカ）からは、当時の高度な技術がうかがえます。奥には茶臼山古墳解説ビデオを視聴できるコーナーもあり、わかりやすく茶臼山古墳について学ぶことができるようになっています。実際に、見学した小中学生からは「わかりやすかった」「古墳のイメージが変わった」などの感想が聞けるそうです。

現在茶臼山古墳資料館で展示中の鏡類は、12月10日（土）から山口県立萩美術館浦上記念館において開催される特別展示「シリーズ山東文物6鏡のなかの宇宙」に貸し出される予定になっています。茶臼山古墳資料館を見学して鏡に興味を引かれた方はそちらにも足を運んでみてはいかがでしょうか。
(植木美佳)



茶臼山古墳資料館 展示室



資料館屋上から見た茶臼山古墳公園

お問い合わせ先
茶臼山古墳資料館
〒742-0021 柳井市柳井字向山 305
Tel 0820-22-1186
詳細は
柳井市教育委員会文化財室
〒742-8714 柳井市南町 1-10-2
Tel 0820-22-2111

2005年夏 埋蔵文化財資料館の活動



教育学部附属山口小学校・幼稚園での立会調査

8月 8/2(火)・18(木)・25(木)

教育学部附属山口小学校・幼稚園（白石遺跡）で立会調査を実施。

12(金)・22(月)

吉田構内教育総合研究センター（吉田遺跡）で立会調査を実施。

9月 9/8(木)

吉田構内教育総合研究センター（吉田遺跡）で立会調査を実施。

14(水)



教育総合研究センターでの立会調査

季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信
第2号
『てらこや埋文』2005 秋

編集・発行

山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511 山口県山口市大字吉田 1677-1
Tel/Fax 083-933-5035
E-mail yuam@yamaguchi-u.ac.jp

発行年月日 2005. 10. 1.